



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：エボラ出血熱に感染した疑いのある男性が死亡

8月6日、サウジアラビア保健省は、エボラ出血熱に感染した疑いのあるサウジ人男性がジッダの病院で死亡したと発表した。男性はエボラ出血熱の感染が拡大している西アフリカのシオラレオネへ渡航歴があった。保健省はWHOと協力しながら、男性がエボラに感染していたかどうかを調査している。感染が確認された場合、アフリカ以外での初のエボラ感染による死者となる。

エボラ出血熱はエボラウイルスによる急性熱性疾患であり、ウイルス性出血熱の一疾患である。血液や体液との接触により、ヒトからヒトへの感染も発生する。自然界の宿主は現在も不明で、感染予防のためのワクチンはない。潜伏期は2～21日で、発症すると、発熱、頭痛、腹痛、咽頭痛、筋肉痛、胸部痛、出血などが見られる（出典：国立感染症研究所HP「エボラ出血熱とは」(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/encyclopedia/392-encyclopedia/342-ebora-intro.html>)）。エボラ出血熱の致死率は50～90%と極めて高く、6日、WHOはエボラ出血熱による死者数が932人に達したと発表。ジュネーブで緊急会合を開催し、現在の状況が緊急事態に当たるかどうかを判断し、対応策について議論している。

4日、サウジアラビア保健省は、シオラレオネ、ギニア、リビアの3カ国に対し、ハッジ（巡礼）・ウムラ（小巡礼）ビザの発給を停止したと発表した。3カ国には合わせて約1350万人のムスリムがおり、同決定により約7000人が影響を受けたとされる。

評価

サウジアラビアでは、4月にはMERSの拡大の恐れがあったが（「サウジアラビア：MERSの拡大の恐れ」『中東かわら版』No.23（2014年5月13日）を参照）、WHOの発表によると7月23日現在、MERSの発症者は837人（うち291人が死亡）となっており、感染の拡大の速度は一時期の半分程度まで低下している。

今回、エボラ出血熱の感染の疑いがある人物がサウジアラビアで確認されたが、イスラーム教の聖地を擁するサウジアラビアでの感染症の拡大は、全世界のイスラーム諸国に波及する恐れがあり、警戒が必要である。特に、10月1日からはハッジが予定されており、その前後には300万人以上のムスリムがサウジアラビアを訪問するため、政府、国際機関には早急な対処が求められている。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799